

令和 5 年度 学校評価報告書 1 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立 福岡女子高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)
学校長	ふりがな おおす りゅういちろう 氏 名 大洲 隆一郎	1 教育目標 教育基本法の精神に則り、急速に進展する国際化・情報化などの社会的変化に対応し、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を培う。 2 めざす学校像・生徒像 【学校像】校訓である「自立」「共生」「創造」を柱とし、個々の個性や能力を伸ばし、豊かな心と未来を生き抜く力を育てる学校 【生徒像】自他を重んじ、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を身につけた生徒	1 本校独自の特色化・魅力化の推進 【家庭科】社会の変化に対応し、ヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリストを育成するために家庭科改革を推進する。 【国際教養科】アジアのリーダー都市に相応しい国際感覚に富む人物の育成をめざし、国内外での語学研修や国際交流等の拡充を図る。 【普通科】看護・医療系への進学希望に対応する看護進学コースの充実とともに、多様な進路希望に対応する個別指導や少人数指導等により希望進路の実現できる学力の定着を図る。 2 キャリア教育の充実と男女共同参画社会で活躍できる人物の育成 ・キャリア教育融合型総合的な探究の時間の充実 3 人権尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む人権教育の推進 ・組織のないいじめの未然防止 ・互いの人権を尊重し合う学校づくり	学校自己評価 学校関係者評価
校長本校在任年数	2年	3 スクールポリシーに基づく取組の推進 校内での共通理解、共通実践とともに、中学校への広報や個別の説明等に努め、スクールポリシーの浸透と実現にアプローチする。		B B
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな こんどう あつひこ 氏 名 近藤 敦彦			

昨年度の成果と課題	・新学習指導要領に基づく初年度として観点別評価の校内研修を実施し、指導と評価の一体化に向けた授業改善と授業力向上の取り組みを推進した。今後は、ICTを活用した授業改善の取り組みを推進する。 ・地域との連携プログラムである福女×能古プロジェクトに取り組んでいるが、さらに地域との連携を推進するための教育活動を検討する。また、学校行事等を見直し、生徒の主体性を育む教育活動の充実を図る。
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	ICTを活用した学習指導・観点別評価の一体化に向けた授業改善と校務の効率化の推進	ICTの効果的活用のためのスキルアップ研修等の更なる充実を図り、指導と評価の一体化による授業改善を推進する。 会議資料等の配付及び情報共有におけるICTの活用や、校務支援システム等の活用によりさらなる校務の効率化を図る。	C B	・観点別評価の実践例や、ICT活用による学習評価について職員研修を実施した。 ・校務支援システムや自動採点システムの講習会開催およびマニュアル整備を行った。 ・職員連絡、生徒保護者連絡をほとんどICT活用で行うとともに、会議資料についてもデータで配信し、事前に共有することができた。	B	まず、7月に授業を観させていただいた中で、実習中心の授業ではあったが、生徒が自身の目的意識を高く持って授業に臨んでいると強く感じた。座学においても、巡回中、廊下からではあるが、授業を拝見させていただく中で、その雰囲気から、それぞれの生徒が目標達成のために意欲的に取り組んでいると感じ取ることができた。 新しく導入された観点別評価については、検討を重ねることによって、教員間の共通認識が深まり、授業改善・授業力の向上及び指導と評価の一体化に向けた取組が進んでいることが評価できる。 今後とも、さらなるICT活用を含めた授業改善と観点別評価の研究を推進していただきたい。	・ICTスキルの充実にむけて、複数の実践例を共有する研修が必要である。 ・教員間での連絡に使用するツールが複数存在しているため、連絡作業を何度も行う必要がある。そのデメリット部分を補うため、校内の情報共有ルールを整理を進める。
	新学習指導要領にもとづくカリキュラムマネジメントの実施と観点別評価の円滑な運用	観点別評価の研究を教科ごとに行うとともに、校内研修などにおいて情報共有を行い運用する。 教科ごとに考査等の評価をもとにした定期的な検討を行い、カリキュラムマネジメントを実施する。	B C	・定期的に評価のための検討を行うことにより、予想以上に教員間の共通認識が進み、教科会議や学習評価の充実が見られた。 ・評価活動に起因する教員の負担感の縮減が課題である。 ・カリキュラムマネジメントについては、今後も検討が必要である。		・新課程の完成年度となるため、評価方法についてさらなる研修が必要である。 ・評価の研修とともに、カリキュラムマネジメントについての研修を検討する。	
生徒指導・人権教育	いじめ・不登校・中途転退学等の諸課題に対する組織的対応の充実	SCやSSW、通級指導教員等との連携を強化するとともに、円滑な情報共有を行う校内生徒支援体制の充実を図る。 定期的なアンケートや面談等により生徒の状況把握を行い、生徒支援の早期対応を行う。 保護者、学校外の諸機関等との連携を積極的に行い、生徒支援につなげる。	A B C	・SCやSSW、学校外の関係機関と連携し、生徒・家庭の支援をすることができた。 ・通級指導教員と情報共有し、継続的に生徒支援を行った。 ・毎月アンケートを実施することで生徒との面談の回数が増え、予防的な取り組みを日常的に行うことができた。 ・教育相談事務局を立ち上げ、隔週で事務局会議を実施することで、迅速に個別のケース会議を行うことができた。 ・校内ネットワークを活用し生徒情報の共有を行うことで、これまで難しかった非常勤講師の先生方と速やかに共有することができた。	B	いじめや不登校は、全国的に生徒指導上の大きな課題となっている。その中において、学校の初動対応の遅れや学校が現状を把握できていない状況などもあげられている。 SCやSSWを含めた教育相談事務局を立ち上げ、迅速に個別のケース会議を行うこと、また、校内ネットワークを活用した生徒情報の共有を行うこと、毎月のアンケートをもとにできるだけ多く生徒との面談を行うことで、生徒の状況把握と生徒支援の早期対応を行うことができていたことは、大いに評価できる。 昨年度も記したことはあるが、特に、生徒との面談は、生徒一人ひとりが、「自分一人ではない、自分には居場所がちゃんとある、自分には必要とされている」などの感情を抱き、生徒の不安の解消や目標の再確認、意欲の向上などにつながっていると考える。 今後とも、生徒と触れ合う時間を可能な限り確保し、さらなる生徒の自尊感情や自己肯定感の育成、目標達成意欲の向上を目指していただきたい。	・配慮を必要とする生徒等への支援を支援チームを作って対応できた。今後は、支援を要する生徒へ充実した対応を進めるため、個別支援会議等へSCやSSW等との連携を強化していく。 ・教育相談事務局や教育相談委員会による生徒情報の共有や個別のケース会議の実施を今後とも進めていくとともに、組織のあり方についても検討を進め、より迅速に丁寧に対応できるよう図っていく。
	豊かな人権感覚の醸成と一人ひとりを大切に作る学校づくり	教員の指導力向上を図るための校内研修を実施するとともに、人権教育推進委員会における情報共有により充実した生徒支援を行う。 現代における人権課題やアンケート等により把握した生徒の課題を取り入れた特設授業を実施するとともに、人権意識の向上を図る指導を適宜行う。	B C	・校内研修を5回実施し、教員の学びを深め、チームワークを強めることができた。 ・現代における課題であるいじめ防止をテーマとした特設授業でソーシャルスキルトレーニングを行った。 ・福岡特別支援学校や韓国の姉妹校との交流をとおして、差別に負けない確かな人間関係作りにつなげるることができた。	B	・SNSに起因したいじめやヘイトスピーチ、ヘイトクライムなどの現代における課題及び部落差別の現実に対応していくための教育内容を生徒の実態に合わせて見直しを行う。 ・学びの土台となる人間関係作りを教員との面談の充実や支援学校等との交流や特設授業での取り組みを通してより強化するよう図っていく。	
	生徒の進路実現への意欲と意識を高める系統的・発展的なキャリア教育の推進	進路実現に主体的に取り組む意識の涵養を図るために、キャリアパスポート(「プログレスノート」)や「進路の手引き」を活用した進路指導を実施する。 進路講演会やガイダンスなどの進路に関する行事を各学年と連携して組織的に実施する。	B C	・キャリアパスポートや「進路の手引き」を活用した指導及び進路講演会など進路に関する行事は、各学年と連携して実施できた。 ・生徒の進路意識の向上を図るべく、進路指導主事面談を実施し、生徒達と直接的な対話を行ったことにより、希望する進路実現のために努力したいと考える生徒も出てきており、より難易度の高い大学への合格者も増加している。	B	生徒の進路意識の向上を図るべく、進路指導主事面談を実施し、生徒との直接的な対話を行うことにより、希望する進路実現のために努力したいと考える生徒も出てきており、より難易度の高い大学への合格者が増加していることは、大いに評価できる。加えて、各担任との連携についても、必要に応じて進路情報の提供や担任からの相談に応じるなど、担任の進路指導の支援に努めていることも評価できる。 また、進路ガイダンス、就職レクチャー、小論文ガイダンスなどに加えて、高大連携の拡充、看護進学コースにおける実習を伴う学習など、様々な分野、領域において、生徒の進路に関するニーズに応えるべく取組を充実させていることも大いに評価できる。	今年も4年制大学への進学者が増加した。次年度以降も4年制大学への進学希望者は増加すると見込められ、生徒の進路希望は進学への意識が向上している。生徒への面談などを通して、さらに高い目標を持たせるとともに、進路意欲を持続させ、進路目標の実現を図っていく。 大学入試においては、推薦型や総合型などの年内入試が主流となり、時期の早期化・入試形態の多様化が進み、入試情報の収集や把握が難しくなりつつある。そこで、生徒への進路情報の提供はもろろん、担任とも情報共有をはかり、生徒への効率的かつ充実した指導体制の構築を図っていく。
魅力ある高校教育の推進	生徒の主体性を育む教育活動の推進	学校行事等において、生徒会や各クラスの実行委員会を中心として生徒が主体的に取り組む組織的な運営を図る。 校則の見直しにおいて、生徒と教員とが関わる組織づくりを行い、協力して検討を行う。 課題研究や総合的な探究の時間などにおいて、地域・企業・行政等の地域との連携した教育活動を行う。	A C A	・体育祭や文化祭、校則の検討等生徒会役員を中心に生徒が主体的に取り組むことができた。 ・生徒総会での意見を踏まえて校則の見直しを検討することはできた。生徒と教員が関わるためのよりよい組織のあり方を検討することが課題である。 ・総合的な探究の時間等で、能古島や姪浜商店街、地域団体などの地域資源との学びの連携を大幅に強化することができた。また、博多芸術花火や祭りなど地域のイベントに多くの生徒が参加することができた。生徒たちも地域活性化に対して課題意識を持ち主体的に学びに取り組む姿が見られるようになった。	A	教育活動の魅力と特色をいかに出し、いかにその成果を上げるかが、強く求められるところである。 公式YouTubeチャンネルを開設して学校紹介動画を公開すること、Instagramやグーグルclassroomによって取組を発信すること、11月、12月の中学生進路相談会に加えて、夜の個別相談会を実施することなど、効果的な情報発信ができていた。体験入学や文化祭体験の参加者が過去最高となったこと、新たに実施した11月、12月の学校説明会も多くニーズがあったことも納得がいく。 課題研究や総合的な探究の時間などにおいて、地域・企業・行政と連携した取り組みも活発に行われており、中でも、普通科、国際教養科、生活情報科、食物調理科が参加して行う「能古島プロジェクト」では、能古島観光PR大使賞を受賞するなど、目を見張るものがある。 他にも、国際交流、高大連携、地域行事等への参加、部活動、各種コンテストなど、様々な教育活動の場面において、成果を上げている。	・今後の方針としては、生徒会役員と各クラスの委員を中心とした組織づくりを行い、より多くの生徒が主体的に関わる組織としていく。 ・改善点としては、校則の見直し等の検討を継続的に進めていくための組織づくりを行うことである。 ・地域と連携した活動では、まだ学びの質は向上できる余地があると思われるので、内容の検討を進める。また来年度はマニュアル化を完成させ誰が担当者になってもベシクに対応できる仕組みの構築を目指す。
	教育活動の魅力と特色を効果的に情報発信する広報活動の実施	本校の魅力や地域や保護者等に多く発信するために、SNS等を活用した新たな広報活動に取り組む。 学校訪問、体験入学等を見直し、中学生やその保護者、中学校の先生のニーズに即した内容を検討し、実施する。	B B	・公式YouTubeチャンネル開設し、100周年記念事業の一環として作成した学校紹介動画を公開した。また、Instagramやグーグルclassroomによって中学生を中心に多くの方へ本校の取り組みを発信できた。 ・中学校訪問や体験入学は抜本的に手順や内容を改めた。 ・体験入学や文化祭体験の参加者は過去最高となり、新たに実施した11・12月の学校説明会も多くニーズがあることがわかった。	B	・SNSを活用した広報活動では、見せ方の工夫をするなどし、より本校の魅力が伝わるように研究を重ねていく。 ・担当の職員間の負担の公平化や時間と内容のバランス、デバイスや場面をより検討し、より効率よく本校の魅力を発信できる工夫をしていく。	

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。